



教材教具名	形合わせパズル	教科（国語・算数）
教材教具写真 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		
教材教具の概略（ねらいと使い方） ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等		
<p>1 ねらい ○ 果物や乗り物の絵のパズルを合わせて、正しい絵を作り、パズルの絵とその名称とが一致できるようになる。</p> <p>2 発達段階など ○ 模倣・指さしを獲得する時期（本校の発達段階別指導内容表より） ○ 物の形状を意識し、概念形成のもとになる力を育てる時期（発達段階別指導内容表より）</p> <p>3 使い方</p> <p>〔果物パズル〕</p> <p>① 「りんご」、「みかん」、「バナナ」、「いちご」の果物の絵を2つに分解したパズルを合わせて正しい絵を作る。</p> <p>② 「りんごはどれ？」という言葉を書き、言われた名称の果物を指さしたり、その絵をたたいたりして伝える。</p> <p>〔乗り物パズル〕</p> <p>① 「バス」、「新幹線」、「ヘリコプター」、「ふね」の乗り物を3つに分解したパズルを合わせて正しい絵を作る。</p> <p>② 「バスはどれかな」という言葉を書き、バスの絵を指さしたりたたいたりして伝える。</p>		
児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）		
<p>パズルの絵を合わせる活動には、とても意欲的に取り組むことができた。肢体不自由の児童で、自分でパズルを合わせることが難しい児童には、教師が合わせて見せて、正しいか間違っているか、応えるようにした。正しい絵を作り上げた後に、「〇〇はどれ？」と尋ねると、正しい絵を示すこともできており、児童がどの程度言葉を理解しているのか把握することができた。2つに分解したものは、すぐできるようになったため、3つや4つに分解した物も作成した。それらを今後使用していきたいと思う。</p> <p>「りんご」と「いちご」の区別が難しく、うまく絵を作ることができない児童が多かった。同じ赤色の果物で悩んだのかもしれないので、今後は「トマト」も取り入れて指導に取り組んでいきたい。</p>		